

「わたしの幸せ風景」は自然豊かな やすらぎのまち

桂坂景観まちづくり協議会

このコーナーでは、京都の景観・まちづくりに取組む企業・団体をご紹介します。今回は、西京区桂坂学区で活動されている「桂坂景観まちづくり協議会」さんです。桂坂景観まちづくり協議会では、ポストカードを作成し、地域での催しや、まちセンの窓口で販売しています。協議会会長の養島さん、景観づくり部会会長の竹谷さんにお話を伺いました。



協議会会長 養島さん

桂坂はどんな地域ですか？

桂坂は16の自治会で構成され、当初から戸建て区域に建築協定が設定されていました。桂坂地区建築協定協議会が、平成24年から「桂坂景観まちづくり協議会」として発展し、各地区の景観まちづくりを進めています。桂坂やその周辺の自然環境、歴史などと調和した郊外型住宅地として、良好な景観、健康的な住環境の維持と更なる発展に向けて取り組んでいます。

ポストカードを作成したきっかけは？

桂坂に住まいを構えてから30余年たちますが、その間に社会は、人口減少と少子高齢化の進展、人間関係の希薄化、地球温暖化などが生じています。

そうした社会の動向を踏まえて「高齢者ばかり・隣人を知らない人ばかり・空き家ばかり」といった、このまちを“ばかり地域”から脱却し、老若男女みんなが暮らしやすいまちを目指すきっかけ作りの一つとして、ポストカードを作りました。

「わたしの幸せ風景」をテーマとして、住民の皆さんが大切にしたいと思う風景・隠れた絶景・楽しい風景など、桂坂の魅力ある景観写真を募集しました。写真はどれも素晴らしく、写真展を開いて住民のみなさんに見ていただくとともに、応募された多数の作品の中から15点を選びポストカードにしました。

桂坂ポストカード

5枚1セット(A～Cセット)各300円

桂坂ポストカードは、まちセン窓口で、5枚1セット300円で販売しております。売上の一部が京都市景観・まちづくりセンターに寄附され、今後の景観・まちづくりに役立てられます。皆様ぜひぜひお問い合わせください。



Aセット



地域の催しでの
ポストカード販売の様子

ニュース レター

京まち工房 91

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

特集

P2-3 京町家なんでも相談会

P1 京都人👤の京都知らず

P4 京町家改修ガイドライン

P5 文化財マネージャースキルアップ講座

P6 地域まちづくりの専門家紹介

P7 「私と京都」／京都人👤の京都知らず 編集後記

P8 寄附団体紹介

令和2年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛 助 団 体 の 皆 様			

ポストカードについて

ポストカードは、桂坂の豊かな自然があってこそ作ることができました。このまちに足を踏み入ると心がやすらぎます。山すそにまちが広がり、公園や街路など公共の樹々たちと個人の家々の樹木と花たちが饗宴して豊かな自然を織りなしているからです。

ポストカードはまちの魅力だけでなく、写真や文字を通して文化を発信しています。桂坂に住まう人たちだけでなく、日本全国や世界の隅々まで、まちの魅力と文化は届きます。ポストカードを手にした人たちがこの素敵なまちに住み続けたい、住んでみたいと心が動けば最高に嬉しく、ポストカードに期待しているところです。

「わたしの幸せ風景」を見ると心が和みます。ぜひ、手にとってみてください。

まちに対する想い

建築協定や、景観の事前協議制度があったお陰で、街並みが守られ、公共空間も広く保たれた自然豊かなまちとなりました。“自然豊かなやすらぎのまち”をキーワードに、この景観を守り、さらに豊かにする当協議会の活動が“子どもから高齢者まで健康で安心して暮らせるまち”そして、社会問題や世界的な環境問題などにも貢献する“やさしいまち”につながると信じています。

公益財団法人
京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る
梅津町83番地の1(河原町五条下る東側)
ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704
E-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp
HP: <http://kyoto-machisen.jp>

HP

Facebook



※センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用下さい。

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

ニュース レター

京まち工房 91

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター



※町式目書かれた駒札は、(公財)京都市景観・まちづくりセンターの助成金(協議会助成)を使って作られました。

令和元年度

京町家等継承ネット「京町家なんでも相談会」を開催しました

長い歴史の中で培われてきた京都の生活文化を今に伝える京町家。京都らしいまちなみの大切な要素として保全・継承を求める声が高まっています。一方で、京町家をお持ちの方や活用したい方にとっては、その維持や継承そして活用について、戸惑うことやわからないことがたくさんあるのではないのでしょうか。

京町家等継承ネットでは、京町家に関する疑問や質問を、京町家相談員をはじめとした各分野の京町家の専門家に気軽に相談する機会として、「京町家なんでも相談会」を開催しました。あわせて、京町家に関するここだけの話をお聞きいただける「京町家ミニ講座」も開催し、京町家についての疑問や不安を解消していただける2日間となりました。



開催概要

開催日 令和2年2月14日(金)、15日(土)

◆ 専門相談(各回3組)

①午後1時～午後2時 ②午後2時15分～午後3時15分 ③午後3時30分～午後4時30分

◆ 一般相談 午後1時～午後4時30分

会場 ヨリアイマチャー 五条烏丸ー(京都市下京区大堀町491)

主催 公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター、京町家等継承ネット

後援 京都市

相談件数 専門相談17件、一般相談8件



相談会の様子

当財団では、常時相談窓口を開設し職員が相談対応をしていますが、「京町家なんでも相談会」は、会場にて京町家等継承ネット会員や京都市の京町家相談員といった様々な分野の専門家に直接相談でき、日頃の疑問を気軽にたずねることができる貴重な機会です。

令和元年度の相談会では、合計25組のご相談をお受けしました。相談内容は、相続問題、改修方法、活用に関すること、資金調達、相隣問題、京町家の保全・継承、公的指定や助成制度など様々でした。また、当日は京町家等継承ネット会員より提供された京町家の物件情報を来場者が自由に閲覧できるよう配架し、京町家の居住や活用に関心のある方にも京町家の情報を提供しました。相談会終了後も経過を伺いつつ、必要に応じて相談員による往訪相談を実施するなど、きめ細やかな対応を行っています。



京町家ミニ講座

開催日 令和2年2月15日(土)

◆ 第1回 午前10時30分～午前11時30分

『京のまちと通りの歴史ー万寿寺通京町家保全継承地区を例にー』(参加者数:23名)

講師:山村 純也 氏(株式会社らくたび 代表取締役)・山田正太郎 氏(株式会社いづつ 代表取締役)

◆ 第2回 午後3時30分～午後4時30分

『京町家を未来へ 活用に踏み出すために』(参加者数:30名)

講師:寺田 泰三 氏(京町家所有者)・吉田 光一 氏(株式会社フラットエージェンシー 取締役会長)

参加者数(延べ人数) 53名



(左から)
第1回目講師の山村氏、山田氏



(左から)
第2回目講師の吉田氏、寺田氏

京町家ミニ講座の様子

今回は、「京町家ミニ講座」を同時開催し、京都の歴史や京町家の活用に関する体験談をお聞きいただく機会を設けました。第1回は『京のまちと通りの歴史ー万寿寺通京町家保全継承地区を例にー』と題して、万寿寺通を例に京都の通りの成立の歴史についてお話いただきました。第2回は『京町家を未来へ 活用に踏み出すために』と題して、実際の京町家所有者より保全・継承のための活用への道のりについて、また活用を支援する立場である宅建士より、これまでの京町家再生のご経験をお聞きしました。各回定員20名の小規模なセミナーだったにもかかわらず、延べ53名の皆さんにご参加いただき、盛況のうちに終えることができました。

これからも京町家等継承ネットは、京町家の保全・継承および活用を希望される皆さんのご相談をお受けし、適切な情報を提供することで、京都らしいまちなみを次世代に引き継ぐお手伝いをしたいと考えております。

相談員一覧:(順不同、敬称略)

岩佐英治、西村孝平、西村直己、山下善彦、吉田光一、木村紀晃、米田安志、志村公夫、富家裕久、前岡照紀、小町崇幸、内田光人、綾野晃、中塚邦美、上間翔介、白山雅巳、岡本秀巳、中積一、林茂、田原利晃、辻勇治、末川協、伏木道雄、宮田真悟、中出威一郎、小西康雄、水谷英一、重野利明
京都市都市計画局まち再生・創造推進室 小谷啓太、内藤真紀子

「京町家をリノベする、その前に。」を発行しました。

当財団は、京町家の保全・継承の取組の一環として、京町家の魅力をいかしたリノベーションを促進するため、設計や施工の際に留意していただきたいポイントをまとめた小冊子「京町家をリノベする、その前に。」を発行しました。

この小冊子は、京町家のリノベーションを数多く手がける実務者や学識者による制作委員会での検討を行い、京都市の協力を得て作成しました。京町家のリノベーションに携わる事業者、設計者、施工者の皆様のご参考といただければ幸いです。



小冊子「京町家をリノベする、その前に。」のイメージ
事例写真、イラスト、制作委員のコラムも掲載しています。

主な内容

京町家のリノベーションを計画する際に必要な基礎知識として、構造体をしっかり健全化することの大切さや費用の考え方などを、わかりやすく説明しています。また、避けたい改修デザインを具体的に示したモデル設計や、京町家に対する京都市等の補助制度も紹介しています。

INDEX

- 1 京町家をリノベーションする
- 2 京町家リノベーションの基礎知識
- 3 京町家改修デザインの実践
- 4 補助制度のご案内

制作委員会 委員（50音順）

魚谷繁礼 株式会社魚谷繁礼建築研究所 代表
内田康博 一級建築士事務所 内田康博建築研究所 代表
高田光雄 京都美術工芸大学 教授
西村孝平 株式会社八清 代表取締役
宮田裕一 京都府建築工業協同組合
(株式会社 宮田工務店 代表取締役)

制作委員会の様子



※上記委員の他、執筆、写真提供など多数の皆さまにご協力いただきました。

今後の活用予定

京町家の改修事業者、設計者、施工者等を対象とした啓発に広く活用します。

公開について

当財団のホームページで公開しています。
【URL】<http://kyoto-machisen.jp/>

※京都市景観・まちづくりセンター（「ひと・まち交流館 京都」地下1階）、京都市都市計画局まち再生・創造推進室（京都市役所分庁舎2階8番窓口）等で無料配布します。



京町家の魅力を伝える ～建物調査報告書の作成～

京都市文化財マネージャー育成講座※を修了した方を対象としたスキルアップ講座を開催しました。京町家を含む伝統的な建物を守り継承していくための活動のひとつとして、京町家カルテや建物調査報告書を題材に、建物調査についてお二人の講師に講義していただきました。また、講義後に会場の田中家、茶房aotakeを見学させていただきました。

開催概要

- 日時 令和2年2月24日（月・祝） 9時30分～12時10分
- 会場 田中家・茶房 aotake（下京区七条通間之町東入材木町）
（景観重要建造物、京都を彩る建物や庭園認定）
- 講師 大場 修 先生（京都府立大学大学院 教授）
栗山裕子 先生（古材文化の会副会長）
- 参加者数 13名

※歴史的建造物を保存活用する専門的知識を有する人材を育成するための講座を、京都市文化財マネージャー実行委員会により開催。実行委員会はNPO法人古材文化の会、京都市、京都市景観まちづくりセンターにより組織される。



講座の内容

1 京町家基礎講座（京町家の種類・特徴について）

大場修先生からは、京町家カルテ等で調査してきた京町家のデータを基に、京町家の歴史から、それぞれの外観形状の分類、間取りの分類、規模の考察、通りの成り立ちと町家の奥行の関係性等、多岐に渡って写真で紹介しお話しいただきました。

表屋造り、高堀造り、織屋建て等の大きな町家から、小さな長屋、借家建て等さまざまな類型についてたいへん興味深く、豊富な内容のため時間切れに終わってしまいました。参加者から「もっと時間をたっぷり取ってほしい」との要望が多く、「主屋と借家の関係性」「看板建築について」等各テーマについても掘り下げてお聞きしたいとの声が寄せられています。

2 京町家調査の心得、勘所

栗山裕子先生からは、文化財マネージャーとしての役割と心構えについてお話しいただきました。お住まいの方、お使いの方へ建物の価値をお伝えすること、一緒に寄り添っていくこと、調査スキルを高めて、調査資料を作り役立てていく意義について等です。そして、京町家へ訪問する際の心得、配慮すべきこと、実際に建物調査をおこなうにあたってのさまざまな勘所について、実践に基づくお話でたいへん勉強になりました。

調査前の準備として、地域の歴史をあらかじめ調べておくこと、近隣周辺の状況をよく見ておくこと、敷地の中の建物配置、それぞれの町家に応じた着眼点の違い、さらに報告書作成にあたってのさまざまな説明が盛沢山な内容となりました。

参加者の声 参加者のお仕事は建築関係の方、建築以外の方半々くらい

- 多様な京町家の類型を知ることができた
 - 調査用の紙製テープをすぐに見習いたい
 - 内容について…満足！よかった！←多数
 - 時間が短すぎる
- ありがとうございます。今後の企画の参考にいたします。

まちセンから

最後に、建物調査事業について説明しました。昨年度より、京町家カルテに加えて、「京建物カルテ」という事業もスタートしました。大切にしていきたい伝統的な建物（京町家も含む）が対象です。文化財マネージャーとしてこれらの調査でも活躍していただきたいと期待しています。



会場・見学先 田中家

七条高倉の角に建つ本二階建ての町家で、景観重要建造物・京都を彩る建物や庭園の認定となっています。

茶房 aotake

田中家の西側に隣接して建つ貸家で、現在はサブリースされてカフェとして営業されています。



第18回 地域まちづくり・京町家の専門家紹介

「安全・安心」なコミュニティを目指す

当財団は多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い想いをもって京都のまちに関わる専門家の方々をご紹介します。

今回はこの方！



まつもと あきら
本 明 氏 株式会社 地域計画建築研究所(アルパック) 取締役京都事務所長

京都大学大学院で建築学を専攻し1987年に修了後、株式会社地域計画建築研究所(アルパック)に入社し、現在まで京都事務所に勤務。都市計画コンサルタントとして京都市の都市計画やまちづくり計画策定のほか、近畿各地の自治体総合計画策定等に従事。現在は京都市中京区の朱雀第二学区の防災まちづくりを支援している。

京都の都市計画にあこがれ

建築家に憧れて建築学科に入りましたが、自主ゼミなどを通じてまちづくりに関心を持ち、都市計画の研究室に入りました。研究室では1968年新都市計画法をめぐる論争や、産業と地域形成及び主体形成をめぐる議論などに触れ、都市計画へのアプローチを学びました。その頃、当社の創業者達が発刊した「地域計画」という冊子を読み、京都で都市計画の仕事ができるなら、ぜひ参加したいと思って応募しました。

祭の復活、防災まち歩きも

当初は都市計画や住宅政策などが多かったです。京都市の用途地域改定や都市計画マスタープラン策定に関わりましたが、担当者の方々と各地を踏査し、地域を読み取る作業を共有しながら答えを見つけていきました。また、いくつかの学区で「学区まちづくり」に関わりました。中立学区では、中立売通を対象として市内の既成市街地では初のコミュニティ道路を地元と協働で実現しました。西陣学区では西陣織の衰退の中でにぎわいと魅力を創出するための祭の復活など住民活動を支援しました。地域のニーズを形にする活動に伴走できたこと

は貴重な体験でした。

朱雀第二学区と翔鸞学区では、多数の方々が防災まち歩きに参加し、袋路をくまなく調べ、近所の方に話を聞き、ワークショップを通じて安全と住みやすさへの意識を高めていきました。学区の自主防災会の方々は自治の担い手としても役割を発揮されており、「安全・安心」は誰もが参加できるコミュニティ形成の共通基盤と改めて感じています。

「コロナ後」を見据えながら

今、新型コロナウイルスの脅威が蔓延しています。まずは終息に向けて一丸となる時期ですが、今後の課題も投げかけられています。危機に対処できる持続可能な地域経営の枠組み、その基盤となる個人や社会の新たな価値観の共有などについて、プランナーとしてしっかりと考えていきたいと思います。



私と京都



地域活性プロデューサー、京都観光おもてなし大使、
(株)クリップ代表取締役、京町家まちづくりファンド委員会副委員長 **島田 昭彦 氏**

京都の変わるものと、変わらないもの。

「こんな隣の家と壁がくっついて、近所のおばちゃんがるさいまち、大嫌いや、大学は東京に出て行く」と親と進学先について大ゲンカ。

中京区小川通二条、田の字の中の築140年の町家、代々、家紋を手描きする紋章工芸士の長男として生まれました。近くに二条城、堀川通、並行して小川通は、かつて小川が流れていて、この水を使った着物関連の染工場や洗い張り業が軒を連ねています。

職住接近の町家は、8畳の表の間は、家紋を描く仕事場。次の部屋が家族で食事する居間。家にいる限りは、寝ている時間以外はすべて親と顔を合わせることになります。

思春期の多感な高校生にとって、常に親や近所の監視の目が光る環境は、息苦しく、伝統、家業、家、人、何もかも好きになれなくて。

反対を押し切り東京の大学へ。ジャーナリズム専攻だったこともあり、大手出版社へ入社。スポーツ雑誌の編集者として約10年間、世界で挑戦するアスリート達、イチローやサッカーワールドカップ、オリンピックの取材で50か国200都市ほど訪問しました。

ある時、イタリア取材で人生を変える一言が。出身は京都だと答えると「世界遺産が17箇所もあるまちでしょ」。

まったく知らなかった自分が恥ずかしく情けなく、この言葉がキッカケで、世界が京都に向けるまなざしを知り、京都を再認識するようになり、京都に戻ることを決意。出版社を退職し、京都から世界に文化を発信しながら、まちに関わる企画会社を設立したのです。

京都に戻っての住まいは、生まれた時と同じあの町家。まちに関わる仕事も多く、メンバーの共有テーマとして「千年先を見据え、100年後をイメージして、10年後の取り組みを考える」。

今、自分たちが京都で、元気で暮らせているのは、先人が安心安全なまちを作ってくれたから。だから自分も、千年後、子供たちが安心安全な町で暮らしていけるようなまちの有り様を丁寧に考えていきたいと、外に出たからこそ思うようになりました。

ン十年たった今、礼儀にうるさいおばちゃんは95歳、密接した町家は内装だけ現代の生活様式に改装。変わったものと変わっていないもの。京都嫌いの反動か、外を見てきたからこそ、今はここでできることを、未来に向けて恩返し。自分に問いかけたい言葉は、「あなたは今でも京都が嫌いですか？」

本の紹介

『京町家カルテ』が解く京都人が知らない京町家の世界

大場 修 著 淡交社 2,970円(税込) 京都市景観・まちづくりセンターで販売中。興味をお持ちの方は窓口まで。(一般書店でも販売しています)

京町家カルテ委員会委員長としてカルテの監修に携わっていただいている京都府立大学の大場修教授が、これまでまちセンで発行した京町家カルテ*をもとに、京町家の成り立ちや歴史について様々な角度から解説しています。

えっ、これも京町家?! いろいろな形の京町家

「京町家」といえば、トオリニワに沿って部屋が並ぶ、奥行き深い形の建物を思い浮かべる人も多いのでは?でもこの本で紹介する京町家は多種多様。「京町家」といっても、実は建られた時代や場所、生業によって違いがあることが京町家カルテを通して見えてきます。

こんな所に花街があった! 京町家から見えてくる町の歴史

鴨川東岸の川端二条周辺にかつて花街が存在していたこと、知っていますか?京町家の間取りや意匠を調査することによって、現在の町並みからは想像できないような町の歴史を垣間見ることができます。

※「京町家カルテ」とは当財団で作成する、京町家の文化的価値や建物状態をまとめた文書です。京町家の保全継承に役立てていただいています。

京都人⑦の京都知らず 編集後記

町家と書いて「ちょういえ」と読みます。いわゆる町会所で、各町内のみなさんの寄合場になっているところが多く市内に「ちょういえ」は多数あると思われます。今回は上京区笹屋町一丁目町内会の「ちょういえ」を訪れました。この京町家の建築年は不明ながら、江戸後期に「ちょういえ」として町に寄贈された建物とのことでした。

現在、笹屋町一丁目町内会は「地縁法人」となっており、この京町家を守りながら、まちづくり活動の拠点とされています。普段は、管理人さんのような友禅染下絵師さんがこの町家を守ってはいますが、夏にはオモテの格子を外してミセノマを使って地蔵盆がおこなわれています。

町内会では、近年の町の変化を受けて、地域のまちづくりのルールを話し合い、昨年町式目を定めました。そして今年は地域景観づくり協議会(景観まちづくり協議会)を設立しました。

歴史あるこの「ちょういえ」を大切にしている町内会のみなさんと一緒にまちづくりについて考えていきたいと思っています。(小出)

笹屋町通は
たくさん町家が残っていて
歩いていて楽しいです。
中でもとりわけ古い「町家の町家」は、
なんだか建物自体が
この一帯の守り神のような風格です。
無事守られることを
お祈りしています。

著者: グレゴリ青山

漫画家、イラストレーター。1966年、京都市生まれ。壬生の地で生まれ育つ。現在は京都府亀岡市在住。京都が舞台の著書多数。6月にこの「京都人⑦の京都知らず」を収録した『グレさんば 猫とかキモノとか京都とか』が発売予定。7月には文庫本『京都深ぼりさんば』が発売予定です。